

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3270101391		
法人名	有限会社 メディックス古沢		
事業所名	グループホーム野の花 ユニット①		
所在地	松江市大庭町1311-1		
自己評価作成日	平成26年1月30日	評価結果市町村受理日	平成26年4月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 x.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=327

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPOLまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白濁本町43番地		
訪問調査日	平成26年2月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>1)地域との連携を密に考え、防災隊への参加をしたり、苑の祭りには模擬店の出店を協力してもらったり、準備・片付けの協力もしていただいています。</p> <p>2)年末には、目標の反省と来年度の目標を職員全員に発表してもらい、全員が目標達成を心がけている。</p> <p>3)内部研修や古沢グループの研修会に参加が出来、スキルアップが図れるようにしている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>地域との交流が深まり、毎月の事業所行事や苑の祭りなどに多数の参加があり協力を得ている。近隣地域は独居の人が増えていることもあり、運営推進会議に参加を呼びかけ、「高齢者を取り巻く犯罪と事故」について交番から話しに来て貰った。代表者は職員の元気が利用者のサービスに繋がるとの思いで取り組み、食事会など職員間のコミュニケーションの場を工夫し、今年度、防災委員会や接遇委員会など五つの委員会を設置して取り組んでいる。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業理念を常に見える所に提示し、主に全体会を通し理念を共有し実践につなげて行けるよう努めている	全体会や各ユニット会議で共有し理解を深めている。日々一人ひとりのペースで過ごせるように言葉がけなどを振り返りサービス向上に努め支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方が野菜を持って来られたり、地域の祭りに呼んでもらっている。又、地域ボランティアや幼稚園、保育園との定期的な交流もしている	散歩で挨拶を交わしたり、野菜の差し入れがあるなど交流している。中学生の福祉体験の受け入れや、ボランティアや近隣の人に行事の案内を出し参加や協力を得ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	推進会議の場で家族や地域の方に普段の様子や取り組みを伝え話をしている。人材育成の貢献として地域の学生の職場体験、福祉体験、介護資格取得する為の実習生の受け入れをしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月に運営推進会議を行い意見交換などもしている。アドバイスを頂きサービス向上に努めている	議題に合わせ関係者に参加の案内をしている。今まで利用者参加は無かったが、参加者より「利用者がホールに出てもらっていいですね」の言葉があり、会議場所をホールにしたことで利用者参加に繋がった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	疑問点があればその都度、質問をして解決している。習得した知識をサービス向上につなげている	日頃より介護保険課などに利用者の実情を伝え、相談に対応してもらい関係を築いている。事業所内の「終末期ケア」研修会に社会福祉協議会から講師に来て貰った。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の安全を考えると現時点では無施錠は困難であるが今後も定期的に検討して行きたい	事業所内・外の研修に参加して理解を深め、転倒などのリスクのある人は家族と話し合い安全を確保しつつ、行動や言葉を抑制しない自由な暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	研修にも参加をし、内部での会議には取り入れ防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に積極的に参加しているので、対象がある時には事前に勉強会を開き、理解を深めて行く		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明や話し合いを行い、家族の理解、納得を図っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し、苦情処理担当を設けている。利用者も推進会議に出席し、思いを運営に反映させている。また、家族アンケートをとったり、面会を通し家族と積極的に関わり意見を聞いている	毎月、たよりや一年間の様子をDVDにして送り、利用者の日頃の様子を伝え、家族会や家族アンケートなど意見を聞く機会を設けている。苑の祭りに協力を得る事で交流にも繋がった。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案を聞く機会があり、反映させている	管理者は全体会やユニット会議時、全職員が一言は発言できるように問いかけたり意見の引き出しをしている。代表者との個人面談を行い思いを聞く機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	処遇改善交付金を夜勤者と日勤のみの職員とで振り分け金に差をつけている。やりがいが持てるように配慮している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に出来る限り参加出来る体制をとっている。又、定期的に外部講師を招いての職員研修も行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームとの親睦会「七色の会」を通して交流を深めるように努めている。 他の事業所との情報交換も行えるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居されるまでに必ず出向して面接をし本人自身から気持ちをしっかりと聞くようにしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居されるまでに家族と十分な話し合いを設け、関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談の段階でゆっくりと話しを聞き、必要としている支援を見極めるようにしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	得意な事の把握に努め、日々の生活の中で役割をもち、暮らしを共にしている。出来る事はしてもらっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の行事案内は担当者が電話をかけている。電話連絡をしたり、面会時などを利用し、関係を築く努力をしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族、友人、知人の方々の自由な面会、又、苑の行事への参加もしていただいている	友人や家族に年賀状や電話での連絡を取り持ったり、家族の協力を得て生家を見に行ったり、自宅に帰るなど支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入って声を掛けやすい状況を作り出し、利用者同士の関係が深まるよう努めている。利用者同士困っている方がいれば助け合いも、なされている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後、必要に応じ対応をしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者ごとに職員の担当制を取り入れ、おもに担当者が家族との交流を深め、こころやすい関係を作り、本人や家族の思いの把握に心掛けている	暮らしの情報シートから一日の過ごし方を知ったり、家族からの情報や日頃の関わりの中での言葉、表情、仕草から、洗濯たたみ、掃除などできることは続けたいなどの利用者の希望を把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族に情報シートに記入していただき、新たに聞き取りをした事を追記してゆき、それを元にスタッフが一人ひとりの情報の把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の一日の流れ、リズムを把握し、理解し、状況を職員全体で共有し、本人が持てる力を見出すことに努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の思い、意見も考慮し、各ユニットで会議を開いている。それをもとに介護計画を作成している	面会時、家族から情報や思いを聞き、プランに繋げている。日々のミーティングやユニット会議で定期的に話し合いモニタリングを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や引き継ぎノートを利用し、職員間で情報を共有し後にユニット会にあげ、介護計画の見直しを行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じて対応可能なニーズにはこたえられるように取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要に応じて公民館、警察、民生委員、ボランティアと協力しながら支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との関係を築きながら協力医療機関から訪問診療に来てもらうケースもある。又かかりつけ医との連絡ノートを作成し、連絡、相談を行いながら適切な治療が受けられるよう支援している	入居前からのかかりつけ医の人や協力医の人もあり、往診や、夜間、休日の緊急時も相談したり指示を受けるなど、複数の医療機関と情報を共有し連携して支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制の契約をしている訪問看護ステーションとの連携をとっており、健康チェックを日々行い、異常があったり入退院等があれば報告し常に、医療面での相談も行っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は職員も関わり、主治医からの説明を聞くようにしている。医療機関にも家族だけでなく苑へも連絡をしてもらい、相談しながら退院後の受け入れが出来るように努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在、終末期対象者はいないが本人、家族に説明、話し合いを行い意向確認書をとっている	入居時に利用者、家族と話し合い重度化した場合の同意を得ている。状況の変化時には看取りの意向確認書を交わし、事業所のできることを伝え家族、関係者と方針の共有をしながら取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普及員と消防署から出向してもらい、全職員を対象に訓練を行う事が出来た		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	大庭地区防災隊に加入し、お互いに協力できる体制を整えている。地区の防災訓練にも参加をしている。事業所内でも年に2回訓練を行っている	業者による器具の点検や取扱いの説明を受けている。今年度より防災委員会を立ち上げ、コンセントのほこりなど定期的に掃除や点検を行い意識づけをしている。	訓練の回数や内容を工夫し、利用者も一緒に体で覚えていく取り組みを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄、入浴等のプライバシー保護に努めている。職員会議でも接遇の勉強会を取り入れ尊重した言葉かけ対応が出来るように努めている	情報シートの活用や、全体会、ユニット会議時に言葉使いや対応などについて話し合いプライバシーを尊重した支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者個々に理解出来る声かけを行い自己決定出来るように支援している。又、重度認知症の方など声かけが理解出来ない方には、日々の様子観察から情報をもとに思いをうけとめられるように努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしく過ごせるように支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの美容師に来てもらったり、家族の家でカットをされる方もある。自分で服を選ばれる方には職員が対応している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理、盛り付け、片づけを手伝ってもらっている。又、誕生日メニューや行事食も取り入れられている。軽量の食器を使うなど食べ易いように工夫している	下ごしらえや盛り付けなど一緒に行い、季節の食材を使ったり、彩りの工夫をして食欲に繋げ、利用者も「色がきれい」と会話している。誕生日には好みの食事を提供し、毎月の行事食も楽しみなものになっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取がしやすいように食事形態や量を調整し提供している。水分もとろみ剤を使用して提供するなどの支援もしている。医師からの指示のある方には添った対応をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりに合った口腔ケアを実施している。2日に1回入れ歯洗浄剤を使用している。希望者は協力医による訪問診療も受けられるようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日々の様子観察で得た排泄サイクルを元にトイレ誘導を行い、トイレでの排泄が出来るように支援している	定時の声かけやしぐさから敏感に察知して誘導し、トイレで排泄ができるように支援している。尿量に合わせ昼と夜のパットを検討し、夜間の安眠を妨げないような取り組みもしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	手作りヨーグルトや野菜を多く提供したり、水分摂取を促し個々に応じた薬の調整や腹部マッサージを行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間のタイミングが分かる方には添った支援を行っている。	入浴日やおおまかな時間は決まっている。利用者の思いを尊重し、気が向かない時は無理強いせず日にちを変えて支援している。重度の人は、足浴の桶を利用し体を温めながらシャワー浴をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の自由にしているが時間を見て声掛けもしている。夜間眠れない時は一緒にお茶を飲んで過ごしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを作成し、職員が内容の把握に努めている。症状の変化が見られたら主治医に相談をしている。服薬は二人体制で確認している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	作成した暮らしの情報シートを元に楽しみごと、気分転換を見つけ出し、出来る事は役割としてしていただいている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望のある方には戸外に出掛けられるよう支援を行っている。又、普段は行けないような場所には行事として行き外出の機会を作っている(花見、花火見物)	天気や体調に合わせて近所を散歩したり、ウッドデッキでお茶会をするなどしている。初詣、花見、花火見物など、家族の協力も得ながら計画的に支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個別での外出支援時に所持したお金を使えるようにしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けたい方には苑の電話を利用してもらっている。手紙もやりとりが出来るように支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は明るく、テーブルには季節の花を飾っている。畳コーナーで横になり体を休める方もいる。厨房より四季折々の食材を使った料理が出され、心地良く過ごせるように工夫している	季節の花や利用者と一緒に作った作品が飾っており、畳コーナーの炬燵やソファなどで過ごせるように工夫している。理美容室があり、各ユニットには汚染時に安楽に洗浄できる設備を整えている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでテレビを見たり、利用者同士、話をしたり定位置でお茶を飲んだり思い思いに過ごされている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある家具や装飾品などを家族に持参していただけるように説明し、協力してもらっている	家族の協力を得ながらベッドやタンス、化粧品、テレビ、写真を置くなど心地よく過ごせる環境作りをしている。日付や入浴日を認識できるようにカレンダーに印をつけ、安心して暮らせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室、トイレ、廊下、階段に手すりを設置し利用者の安全、使いやすさに配慮している。「トイレ」の表示を目線に合わせて下の方に表示している		